

若者向けの元気応援窓口

若者支援コンシェルジュ

山形県に在住または所縁のある若者の地域活動を応援する事業です。
一人でも多くの人と課題を共有することで、解決の糸口が見つかる可能性があります。

なんでも相談窓口

地域活動に関するご相談や、
お問い合わせを受け付けています！

◎ まずは話してみよう ☎ **080-4732-3804**
なんでも相談窓口（平日 9:00～19:00）

SNSからもOK！



若者サポーター

活動へのアドバイスや、技術的なサポート・レクチャーなど
「ちょっとだけ先輩」の若者サポーターがあなたを応援します。

実施期間 令和7年3月31日まで
(受付終了は3月10日)※予定数になり次第終了となります。

利用対象

- 山形県内で地域を元気にするための活動をしている
(これから始めようとする) **高校生～40歳位**の団体または個人
- 山形県内へ移住を検討している40歳位までの個人
- 山形県内の教育機関(サポート受益者が高校生～40歳位であること)

SUPPORT MENU

- ・団体・NPOの基盤整備、運営
 - ・パソコン活用
 - ・会計・経理
 - ・WEB活用
 - ・起業ノウハウ
 - ・イベントの企画・実施
 - ・広報、マスコミ周知
 - ・事業の企画、実施
 - ・その他
- メニューにない内容でもまずはご相談ください！

詳しくはこちら



- ご希望に応じて、みなさまのところへ「相談」または「お手伝い」としてお伺いします。
- 1回2時間、3回まで利用可能です。 ■相談料は頂きません。
- ご相談にはお申し込みが必要です。QRコードから指定のフォームでお申し込みください。

情報発信

地域活動に役立つ情報や、県内で活躍する若者の情報を発信中！
イベント情報や支援制度情報もあるよ！

若者支援
コンシェルジュ



イベント情報



各市町村の
支援制度情報



取材しました！



農家を継いでSNS発信→
フォロワー10万人超え！
米利休さんってどんな人？

農家/インスタグラマー 米利休さん



山形県の置賜地域で米農家を営む
家に生まれ、東京大学を卒業し、
廃業寸前の実家の農業を継いだ米
利休さんにインタビュー。



山形で、本を通してつながる
「人」と「場所」をつくる

山形読書会 寺崎 江里さん

参加者それぞれがお気に入りの本を持
ち寄り、紹介し合う「読書会」。
そこでは初対面の人でも性別や年代関
係なく、1冊の本を通して熱を帯びた
会話や笑い、世間話などで不思議と盛
り上がるのです。



若者支援コンシェルジュ事務局
〒990-0832 山形県山形市城西町5丁目29-19 (AISOHO 株式会社内)
TEL 080-4732-3804 (平日9～19時) FAX 023-673-0703
令和6年度若者支援コンシェルジュ事業 (山形県しあわせ子育て応援部多様性・女性若者活躍課)

「能登半島地震クラス」の大地震が起きるかもしれない山形県

2024年の元日に発生した能登半島地震では、400名以上の命が失われました。
半数は地震や津波によるもの、そして半数はその後の過酷な避難生活中に亡くなった災害関連死でした。
山形は災害が少ないと言われていますが、実際はどうなのでしょう？
山形にも大地震の原因になる活断層が複数あります。国の方では山形の活断層を「危険度の高いSランク」に指定しており、犠牲者は最大で約2千人、避難者も20万人となる大地震になるだろうと言われています。実は、能登半島地震クラスの大地震がいつ起きてもおかしくないのが山形県の現状です。



▲ 能登半島地震・珠洲市にて被害調査を行う

自分の命を守る意識

加えて、2年に一度の頻度で、山形では洪水・土砂災害が発生しています。
いつ災害が起きても不思議ではない山形県ですから、「自分の命を守る意識」を高めることが大切です。

阪神・淡路大震災(1995年)では、犠牲となった0～40歳未満の内、一番多く亡くなったのは20代の若者でした。一人暮らしが多かったり、出費を抑えるために耐震の弱い建物で生活していた学生が多かったりしたこと等が原因だと言われています。

災害が起きる前に、地震に備えて「家具を固定」したり、洪水・土砂災害から命を守るために「ハザードマップで避難所を確認」したりすることが大切です。



▲ 東日本大震災・宮城県塩釜市の海岸にて清掃作業を行う高校生

災害時に必要とされている「若者の力」

そして、大きな災害が起きると、地域には「避難所」や「災害ボランティアセンター」が開設されます。

自宅で発生したガレキや汚泥の処理は、基本的に自力で行う「自己責任、自己完結」になっていますが、高齢者や障がい者の世帯でそれを行うことは無理に等しいものがあります。山形は高齢者も多く、県民の約35%が65歳以上です。そこで必要になってくるのが「若者の力」です。

一方で、国が公表した情報(12年、21年)では、ボランティアの年齢層を見ると、全国的に40代以上の参加が多く(年代毎にそれぞれ20%程度)、10～20代についてはそれぞれ15%に留まっており、まだまだ伸び代がある状況です。

避難所や災害ボランティアセンターでは人材不足に困っているケースが多いので、災害時、時間的な余裕があればボランティアとして参加してみたいかでしょうか？

そのためには、災害で「死なない、ケガをしない」ことが大切です。若者の防災意識が高まることで、次のフェーズである「助け合い」「ひいては「一日も早い山形の復旧・復興」に繋がるものと思います。



ウェザーハート災害福祉事務所
ちがはら きみひこ
千川原 公彦 さん

山形県出身。秋田県在住時に、「日本海中部地震(1983, 秋田県)」を体験。「有珠山噴火災害(2000, 北海道)」を契機に、全国での災害支援活動に関わる。平時は、行政・社協・自治会・NPO等とともに防災訓練・災害研修等の企画など、社会福祉協議会・NPO・住民等と関わりながら、協働を重視した活動を心がけている。

千川原さんのお話をもっと聞きたいときは **若者サポーター** を利用できます

若者サポーターでは、さまざまな分野のスペシャリストや実践者に、お話を聞くことができます。
疑問や悩みが解決するヒントが見つかるかも？ お気軽にご相談ください！